

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192200038		
法人名	株式会社 名水		
事業所名	グループホーム しらかば		
所在地	虻田郡京極町字川西101-12		
自己評価作成日	令和3年3月5日	評価結果市町村受理日	令和3年4月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0192200038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0192200038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ		
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節のレクリエーションを積極的に企画し、入居者の方が快適な生活が送れるように支援をしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームしらかばは、白樺の林をバックに羊蹄山を臨む、風光明媚な地域にあります。近くには名水の湧き出る公園があります。事業所の広い敷地には、ビニールハウスもあり、利用者は野菜の栽培を楽しみ、食卓には旬の野菜を使った料理が並んでいます。  
落ち着いた暮らしを支えるため、ケアマネを中心とした新体制で個別ケアの充実に取り組むとともに、開設以来大切にしている「皆で過ごす楽しい時間」には、様々な趣向を凝らし、レクリエーションや外出、野菜作りや調理など、利用者の得意分野の力の発揮や新しい楽しみの発見につなげています。  
元気な利用者が大半ですが、今後は定期的な通院や食事や健康管理の必要性も大きくなることから、職員の資格の取得や内部研修の充実を目標に掲げています。また、町との連携で社協の法人後見を活用し、後見人が毎週事業所を訪れたり、事業所が外部向けの研修会の開催やネットワーク作りなどを行い、地域に開かれた事業所を目指した活動に着手しています。

#### V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を理解し、共有しながら日々実践に努めるよう努力している。	管理者と職員は、毎朝の引継ぎの時に、理念を確認し共有に努めています。管理者は日々の支援に迷ったときには、自らの介護に対する姿勢を示し、理念を基に指導しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍で地域との交流はできなかった。	今年度はコロナ禍により、地域との付き合いが難しい状況でした。利用者の外出の際は、感染予防を徹底し、地域での感染拡大防止に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ禍で地域との接点をとることができなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を定期的開催することができなかったが、町内会・役場・社会福祉協議会・民生委員の方に理解していただいている。	コロナ禍により、今年度の運営推進会議は1回となっています。会議では、災害対策が議題に上がり、発電機の購入が検討されましたが、予算の関係上、災害時に発電機を優先的に借り入れる方法が提案され、会議後、地元レンタル業者との協定が成立しました。	運営推進会議がほとんど開催できなかったため、会議の目的や方法を含め検討が必要です。参加者が集まって会議ができない場合でも関係者に取組みを伝え、事業所の活動のモニター役として助言を受けることにより、利用者の生活の質や権利擁護に役立つよう取り組んでいくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場やふるさとネットワークで情報やアドバイスをいただきながら取り組んでいる。	コロナ禍の中で、町の担当者から様子伺いの電話やマスクなど感染防止のための備品の提供がありました。また、社会福祉協議会の職員が定期的に訪れ、情報交換を行っています。町からは利用者のワクチン接種の案内があり、協力して接種の準備をすすめています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員全体が理解し日々取り組んでいる。(玄関は夜間のみ施錠)	身体拘束適正化委員会を3か月に一度開催しています。事業所のケアマネジャーを講師に、職員に対して内部研修を行っています。不適切な対応が見られた場合は、毎朝の引継ぎの際に伝え、職員間で対応を共有しています。	職員研修などに取り組んでいますが、夜勤職員が参加していないなど、全員が学ぶ機会を持つための取組みが求められます。また、学んだことが実践されているかを確認する仕組みを検討していくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設長やケアマネージャーが虐待防止への見本となり、日々防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者の方がいるため、必要に応じて話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安。疑問を聞き十分な説明を行い、理解・納得を得た上で書面での契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や要望を話し出せる機会や環境づくりに取り組んでいる。	事業所だよりや電話で、利用者の状況や事業所の現状を家族に伝えることで、家族が意見を表明しやすくなるように工夫しています。オンラインでの面会は、家族からの要望があり、以前から取り入れています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し合いをし、会議での職員の意見や提案を聞き反映できるよう努めている。	管理者は、職員の意見を取り入れるように努めています。職員からは、コロナ禍でもあり、屋内での行事を増やしたいとの意見があり、利用者と共に準備にあたりました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、職場の環境や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ禍で研修を受ける機会がなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年度はコロナ禍で勉強会等に参加する機会がなかった。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に情報収集・共有し要望を聞き入れ安心していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見に耳を傾け、要望や意見を聞き入れ良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族が必要としているサービスを認識し、素早く対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を基本姿勢を基に共に共感しあう関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナ禍で家族との交流ができずらい環境だった。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ禍でなじみの場所には行けなかった。	コロナ禍にあっても、毎月理容室への通いを支援しています。利用者の居室には、家族との写真を飾り、職員は折に触れ写真をもとに、家族の話をする事で、関係を忘れさせないよう工夫をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が生活していく中でコミュニケーションがとれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば環境を整えて大切にしていきたい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向を聞き入れ、サービスを提供できるよう努めている。	利用者の思いや意向は、業務日誌や生活日誌に記録し、職員が共有し、支援に活かしています。意向の把握が難しい利用者は、日々の動作や表情を基に意向を推測し、職員が検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族からの情報を収集・把握しサービスに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の心身状態を観察し、それができよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティング等で情報を共有している。	介護計画は半年ごとに見直しを行っています。生活日誌の記録や職員からの情報を基に、計画作成者が職員からの提案などを盛り込み、計画を作成しています。利用者に変化が見られた場合は、随時計画を変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の必要性を理解し、介護記録の見直しに活かしている。日々の状態を記録し、毎朝のミーティング等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度はコロナ禍で家族の訪問や外出等が柔軟に行えなかった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ禍で近隣との交流や町内会の集まりに参加することができなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年度はコロナ禍でほぼ訪問看護での連携だった。異常があれば受診した。	利用者や家族は受診する病院を選ぶことができます。今年度はコロナ禍の中で、かかりつけ医の毎月の受診ができなくなりましたが、訪問看護と医師との連携で、利用者の日々の健康を支えています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を行い、個々の状態を報告し適切な指示をもらい必要があれば受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療関係との情報共有や相談をし、関係づくりに取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する指針をご本人や家族に示し同意を頂いている。(関係医療機関と共に支援できるよう取り組んでいる。)	重度化に関する方針を定め、入居時に説明しています。地域の医療体制が整わないこともあり、看取りの支援が難しいことを伝え、同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網やマニュアルを作成し、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、緊急時に対応できるよう努めている。	消防の了解の元、今年度は1日で昼、夜の各想定で計2回の訓練を3月末に行います。水、食料、感染症対策備品などの備蓄を行っています。	避難訓練には、夜勤職員も参加できるよう配慮を行い、実践的な訓練を行うことが期待します。また、火災以外の災害に対しても、課題の洗い出しをすることを期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりをよく理解し、自尊心を傷つけない対応をするよう努めている。	利用者の過去の人格ではなく、現在ケアの時に感じる快不快などの感覚やその時の人格に寄り添い、一人ひとりのその人らしさを大切にしています。利用者の居室への入室時や入浴、着替えの際にはプライバシーや羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や、思いを表現できるような関係づくりに努め、自己決定できるような問いかけや声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	共同生活の上での時間の取り決めはあるが、強制はせず臨機応変に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内でのおしゃれが楽しめるよう支援を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望に対し見守りにて利用者主体で調理する機会があり、食後は職員と一緒に片付けを行っている。	利用者は食器洗いや料理の下ごしらえなど、できる事を職員と一緒にを行っています。調理専門の職員が、事業所の畑で収穫した野菜や、家族から提供された地元の食材を使い、毎食手作りしています。献立は利用者の希望を取り入れ、ジンギスカンやラーメンなども提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事や水分補給ができるよう心掛け食事の順番等個々の状態に合わせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに努め、できないところは介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見たトイレの声掛けや気持ちよく排泄していただけるようご本人の自尊心を傷つけないよう取り組んでいる。	利用者ごとに記録をつけ、1人ひとりのタイミングや特徴的な動作に気づくことで、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄につなげています。夜間はポータブルトイレを活用するなど、個別に検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し、食物の摂取に気を付け体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	自立度の高い利用者には見守りを行い、個々の状態に応じた支援を行っている。	入浴は週2回以上を基本としていますが、希望があれば、いつでも入浴できるように支援しています。入浴拒否の利用者には、無理に入浴を勧めず、翌日に振り替えたりしています。利用者ごとに湯の温度を調整するなど、快適な入浴ができるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にいられない利用者はリビングで休んでいただいている。居室にいる際は静かな環境で休息していただけるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬に変更があった場合にはノート・業務日誌等で情報共有を行っている。状態に変化があった場合には訪問看護や受診時に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをとりながら日々の生活の中で楽しみを見つけ出し気分転換ができるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍で外出がままならなかった。	事業所の広い敷地内での散歩やウッドデッキで外の空気にあたっています。感染予防をしっかり行った上で、利用者と買物に行くなど、利用者の気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には本人持ちの財布や、金銭管理をしていただいている。できない方は家族の意向を聞くがなるべくご本人の希望を優先し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会ができない利用者には電話の他にリモートでの対応を行っている。耳が遠い方場合は職員が間に入り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事の飾りつけは過剰にならないよう心地良い空間になるよう努めている。	雛飾りやクリスマスなどの季節の飾りを、1カ月前程度前から行い、利用者の高揚感を盛り上げています。温湿度計を設置していますが、一律の温度設定ではなく利用者の様子を見て、体感温度が快適になるように、室温をこまめに調整しています。また、廊下には、利用者ごとの居室がわかるように、個々の利用者の目線の高さに名前を掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士での居室の行き来があり、職員が見守りできる死角の空間づくりに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべくご本人の慣れ親しんだ家具等を持ってきていただくよう家族にお願いしている。環境が変わっても安心して過ごしていただけるよう支援している。	居室には、家族の写真や使い慣れたものを配置し、利用者が自室であることを認識しやすいようにしています。利用者が快適に過ごせるように、一人ひとり、快適な室温設定を心がけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花や畑の手入れ・カーテン開閉・日めくりカレンダーを設置し、めくっていただく等一人ひとり出来る事を活かせる支援をしている。		